

Akashi College		Year	2018		Course Title	アクティブラーニング入門
Course Information						
Course Code		0010		Course Category	General / Compulsory	
Class Format		Seminar		Credits	School Credit: 1	
Department		Architecture		Student Grade	1st	
Term		First Semester		Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials		『学習設計マニュアル』（北大路書房）				
Instructor		TAKEOKA Atsue				
Course Objectives						
1) 高専（高等教育機関）で必要とされる自律的な学び方を実践することができる。 2) 協同学習の基本技法を学び、それをいくつか実践することができる。 3) 授業時間外に自主的な学習することができる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	自分自身の学習スタイル・特徴に基づいて、自分にふさわしい自律的な学び方がどういものであるかを説明できる。		自分自身の学習スタイル・特徴を判定でき、学んだ範囲の自律的な学び方について説明できる。		学習スタイル・特徴、自律的な学び方を説明できない。	
評価項目2	自分自身の学習スタイル・特徴に基づいて、自分にふさわしい学び方を実践できる。		自分にふさわしい学び方を実践できる。		自分にふさわしい学び方を実践できない。	
評価項目3	学んだ範囲の協同学習の基本技法について、それぞれの特徴を挙げながら説明ができる。		いくつかの協同学習の基本技法の説明ができる。		協同学習の基本技法の説明できない。	
評価項目4	学んだ範囲の協同学習の基本技法をすべて実践できる。		学んだ範囲の協同学習の基本技法をいくつか実践できる。		協同学習の基本技法を実践できない。	
評価項目5	副学習教材について、授業時間外に自主的な学習を進めることができ、合格基準に達することができた。		副学習教材について、促しに応じて学習を進めることができ、合格基準に達することができた。		副学習教材について、学習を進めることができず、合格基準に達することができなかった。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (E)						
Teaching Method						
Outline	高等教育機関（高専）で身につけるべき力の一つに、自ら課題を設定し、それにふさわしい解を見つけ出すというものがあります。これは21世紀を生きるすべての人に必要な力です。高専に入学されたみなさんは、なるべく早いうちからこのような力をつけるための学び方を身につけていくことが求められています。この科目では、これまでに身に付けてきた「勉強」ではなく、自ら主体的、自律的に「学ぶ」方法を学びます。また、仲間と協力しながら、課題発見・解決のプロセスを学びます。					
Style	テキストに基づいて、さまざまな学び方の技法を学びます。ほんとうに学べているのか、クイズや練習問題で確かめ、それらの学びを自分でどう実践していくのかを整理して書いてもらいます。また、グループワークによって、学びを確かめる機会も設けています。					
Notice	1) ほぼ毎回、パソコンなどのICT機器を使います。キーボード操作に慣れていない人は、早めにキーボード操作に慣れる練習を自主的に行う必要があります。（毎回の学びを確認・整理するために、ポートフォリオを、また、理解度を確認するためにクイズフォームを使用します。） 2) 授業の他に、学び方を学ぶ副教材学習があります。試験の振り返り方、ノートの取り方、時事問題を読み方、実用文の書き方などをホームルームの時間や、eラーニングで実施する予定です。これらの活動への取り組みも評価の対象とします。					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	この科目で何を学ぶか？ 自分を取り巻く学習環境を知る 『学習設計マニュアル』	科目の目標を説明できる。 学びをデザインすることの必要性を説明できる。		
		2nd	合宿研修	これからともに学ぶ仲間と知り合い、高専生活の目標を立てることができる。		
		3rd	学習スタイルを把握する 『学習設計マニュアル』	学習スタイルの違いについて説明できる。自分にあった学習スタイルを説明できる。		
		4th	学び方を振り返る 『学習設計マニュアル』	メタ認知について説明できる。自分の学び方の特徴に基づいて振り返りを実践できる。		
		5th	失敗に強くなる 『学習設計マニュアル』	失敗から学ぶ方法を説明できる。自律的援助を活用した学びが実践できる。		
		6th	時間を管理する 『学習設計マニュアル』	タイムマネジメントの方法を例示できる。締め切りとできばえを意識した時間管理ができる。		
		7th	学習意欲を高める 『学習設計マニュアル』	自らが抱えている学習意欲の問題について説明できる。学習意欲を高めることができる。		
		8th	中間試験			
	2nd Quarter	9th	学び合う下地を作る 『学習設計マニュアル』	学びの場で予測される多様性について説明できる。傾聴・アサーティブが実践できる。		
		10th	意見を出し合い整理する 『学習設計マニュアル』	協同学習の技法を実践し、説明できる。ブレインストーミング、KJ法の練習が実践できる。		
		11th	仲間と力を合わせる 『学習設計マニュアル』	協同学習の重要性を説明できる。協同学習のグランドルールを提案できる。		

		12th	協同学習の実践練習① 実践に役立つ学びにする 『学習設計マニュアル』	実践に役立つ学びの原則が説明できる。学びと関連したテーマのアイデアを挙げることができる。
		13th	協同学習の実践練習② テーマを決める	テーマを決め、調査すべき事柄を明確にすることができる。
		14th	協同学習の実践練習③ テーマに沿って調べ、考えたことを発表する	決めたテーマに沿って調べたこと、考えたことを発表し、意見を述べたり、意見を聞いたりできる。
		15th	これからの学びを想像する 『学習設計マニュアル』	21世紀型スキルについて説明できる。これからの自分の学びを設計できる。
		16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	副学習	Total
Subtotal	60	0	10	0	20	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	10	10
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	60	0	10	0	20	0	90